



行政相談委員を長らく務める

志田 洋遠さん・73歳
苗ヶ島町

共に考え解決への手助けに

国などの行う行政サービスに対する苦情や相談を受け付け、改善につなげる役目を担う行政相談委員。志田さんはこの相談委員を務めて24年。現在は市の支部長と県の協議会会長を兼任している。

「行政相談は国などへの苦情相談が本業ですが、実際の相談はさまざま。じっくり話を聞いて内容を整理し、解決の糸口を見つけていきます。納得のいく結果のため、できる限り相談者に向き合います」

赴き、事実関係を確認し、国などへ報告、改善を促す。「多岐にわたる相談に対応するには保護司や民生委員・児童委員、人権擁護委員などの連携も大切です。すぐには解決しない問題でも、話を聞くだけで気持ちがすっきりしたと感謝されることもあるんです」

課題は知名度。イベントなどでの啓発に加え、学校への出前教室も計画中だという。行政相談委員は国などに直接意見することのできる素晴らしい制度。多くの人に制度を利用してもらい、暮らしやすいまちを実現するための手助けをしたい。そう語る目は優しさと意志にあふれていた。

クロエズ
CLOSE UP
アップ。

新春の光の中を疾走

新春恒例のニューイヤー駅伝が1月1日、本市を発着点に開催されました。60回目を迎えた今回は例年より多い43チームが出場。沿道からの声援がランナーを後押しする中、トヨタ自動車が出場しました。また、市役所駐車場では、地元名物などの販売が行われました。

私と
アーツ前橋
Vol. 16

この連載では、市民に寄稿してもらい、さまざまな角度でアーツ前橋を紹介します。第16回は、アーツ前橋内ミュージアムショップMUSEA店員の千木良真弓さんです。

多様性を示す場所に

私が勤めるminaは、千代田通りに面した大きなウィンドーがあるお店です。おしゃれな外観のせいか、入りにくいとも言われますが、美術館の来館者はカフェでお茶したり、ショップで面白いものを見つれたり、おしゃべりしたり、ゆったりと過ごしています。毎日ここにいると、美術館の中というより、日常のささいな場面の中にいるという感覚に。誰もが集える街中の居場所。街中のデパートが美

術館になるって、こういうことだったのかと肌で感じています。



minaでは、全国の障害のある人や群馬の作家が作った商品など、生活に取り入れられるアート雑貨を販売。日本では日常的に、障害のある人と接する機会が少なく、何か特別なことのように感じるかもしれない。アーツ前橋のような文化の発信地で障害のある人の作品を紹介することで、多様な生き方や表現、価値観を皆さんに知ってもらおうことの意味を強く感じています。アーツ前橋を中心に、前橋がさまざまな生き方を認め合う文化を持つ、ソフト面でも住みやすい都市になっていくって欲しい。そしてminaは、そうした多様性を示していく場所でありたいと思っています。

問い合わせは
アーツ前橋 ☎027-230-1144



創業センターが誕生

前橋市創業センターが12月25日にオープンしました。この施設は中心商店街に立地し、起業を目指す人や起業後間もない人をサポートする施設。貸しオフィスや一日単位でお試し創業ができるチャレンジショップなどで、起業家を幅広く支援していきます。



お帰りなさいの音色響く

12月25日にJR前橋駅構内で「前橋おかえりなさい演奏会」を開催しました。前橋の地域若者会議が企画し、JR前橋駅の協力で実現したこの催し。乗降客は年末の慌しさをしばし忘れ、アコーディオンやゴスペル、合唱などの音色に聞き入っていました。